TOYO UNIVERSITY

タイトル	日本、中国、韓国における高齢化とバリアフリー環境整備に関する研究		
分野 バリアフリー	キーワード	① 東アジア	②バリアフリー

研究者氏名：髙橋　儀平
（所属：ライフデザイン学部
人間環境デザイン学科）

［お問い合わせ先］
TEL：048-468-6356
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：tgihei@toyo.jp

【概要】

本研究は急激に進展する東アジアにおける高齢化を見据えた居住環境のバリアフリー化に関する研究であり、少子化、高齢化に対応する生活環境整備の具体的提案を目指す。研究のベースには、先に高齢化が進んだ日本のこれまでの検証と多様な経験を東アジアに導入することが可能であるか、等についての検討がある。

【研究内容】

本研究は，①中国、韓国の都市部において 1990 年代初頭より進展する少子化と高齢化を背景に、生活環境のバリアフリー化の動向を把握し、その進展状況の課題と基盤となる法制度の到達点を検証すること、②これらの動向に対して日本の影響がどこにあるか、あるいは日本のバリアフリー技術の移転が可能であるか、③東アジア地域におけるバリアフリー化の動きを促進することにある。研究は 2009 年、2010 年、2011 年と継続し次のような成果を得た。

中国、特に北京、上海では 2000 年代に入りオリンピックや万博などの国際イベントを通じてバリアフリー法制度が急速に整備された。これらは日本、韓国の法制度と比較しても遜色が見られないが、必要な個所をトップダウン的に整備し利用者ニーズを適正に反映しているとは言えない。韓国ソウルでは 2000 年以降市民意識の高揚と共に急速に都市施設のバリアフリー化が進展している。ソウルでは地下鉄など交通機関を始めモデル的大規模整備(開発)が先行している。両国とも法規制、点から線へのバリアフリー展開は本格化しているが、今後日本におけるバリアフリー基本構想のような面的整備、市民参加の考え方の導入が構想・計画段階から求められる。

○北京市内：共同住宅、世界遺産(長城)、歩車道のＢＦ　　○ソウル市内：地下鉄ホーム、認証建築物のＢＦ

【実用化・活用が見込まれる分野・対象業種等】

中国、韓国をはじめ東アジア地域のバリアフリー化の技術的移転や日本の地方公共団体におけるバリアフリー化展開

【関連特許】（特許名称・出願番号等）